

e-PORTから 世界へ 大きくはばたく

セリフを入力するだけで、表情豊かなキャラクターによる動画の制作・配信が手軽にできる「スマートアバター」シリーズは、現在e-PORTにサーバを設置して運用されています。

e-PORTを活用して事業展開している、有限会社BOND代表取締役の古川ひろ美さんにお話を伺いました。

—ヒューマンメディア財団との出会いは？

開発している「スマートアバター」を運用するサーバの手配に困っていたところ、支援企業様を紹介されたことから始まりました。現在「スマートアバター」で作成された動画はヒューマンメディア財団ビルロビーに設置された広報サインへ導入されています。

活躍する「スマートアバター」キャラクター

—「スマートアバタークリエイター」について

番組作成システム「クリエイター」では、感情類型データベースと連携した人工知能を持つアバターキャラクターがテキストや音声を受けると自動でセリフにあわせた表情や仕草などを考えて動き、専門知識もいらず手軽な操作のみで動画作成ができます。PCだけではなくスマートフォンなどのモバイルからも操作でき、豊富なキャラクターや背景などの素材を組み合わせるだけで、様々な番組作りができます。ビール工場での広報（※1）や、大学や研究施設の研究成果発表や授業教材（※2）としての動画作成に導入されています。



「世界」に触れて大きな自信につながる

—昨年は「第13回MITビジネスプランコンテスト&クリニック (BPCC13)」(※3)で優秀賞(第1位)を受賞

ファイナリストたちはビジネスプランのブラッシュアップを続けた後、指導者と合宿、様々な角度からの厳しい指摘と指導を受けました。たとえ大企業でなくてもよいアイデア、よいビジネスプランさえあれば差別なく平等な評価をしてくれるが、指摘される内容は厳しい。論理的であること、数字に落とし込めること、事業内容をどう伝えていくかのコミュニケーション力を徹底的に求められました。これを体感し、自らのフィルタに通していったプロセスが、どういう環境においても自分はやっていける自信につながりました。短気を起こしたり反論していると学ぶものはなかったと思います。

—受賞による変化は？

世界最先端の情報やビジネスに通じた方々に評価されたことで、信頼度・認知度は企業の信用と併せて向上しています。提携の引き合いも来ています。

ますます広がるコミュニケーションの可能性

—今後の展開は？

キャラを使った音声通話サービス、キャラクタービジネスにもつなげたいと思っています。また、海外展開も視野におき、すでに国際特許も申請中です。日本語よりも発話の再現率が高いので、ますます多くの可能性が広がります。

(※1) アサヒビール様 (※2) 九州大学、公益財団法人九州先端科学技術研究所
(※3) MIT(マサチューセッツ工科大学)傘下の、日本MITエンタープライズフォーラムが主催

BOND
http://i-bond.co.jp

有限会社BOND
〒803-0801 福岡県北九州市小倉北区西港122-10
TEL:093-561-5521
1950年設立

